



防災通信



加入世帯
回覧

2026年1月号
和合町自主防災隊

釜石の奇跡

東日本大震災では、津波によってたくさんの方が犠牲になりました。

そんな中、岩手県釜石市の鵜住居地区の鵜住居小学校と釜石東小学校の児童生徒は全員無事に避難することができました。

この事例は「釜石の奇跡」と呼ばれています。

しかし、これは決して奇跡ではありません。

単に運がよかったから、命が助かったわけではありません。

では、何か？それは、「訓練の成果」なのです。

この地域では、子ども達がしっかりと防災教育を受け、普段から訓練等を通して、いざという時にどうするか、という事を身につけていました。

そして、それを実践できた事が、全員無事避難という結果に繋がりました。

地震が起きたとき、先ず中学生たちが「津波が来るぞ」と大声で叫びながら避難するのを見た小学生が中学生に続き避難。避難所に到着した時点で、津波の様子を見て、ここではダメだと、さらに高台を目指してさらにみんなで協力して避難をします。小さな子供、高齢者もみんなで高台を目指して後に行きました。

さて、私達の地域は、高台だから津波の心配はないから…。と考えがちです。これは関係ない事になってしまうかもしれません。

しかし、この教訓から、私達は学ぶべきことがたくさんあります。

- ① 自分で判断して命を守る行動をする
- ② 想定にとらわれない
- ③ これで大丈夫とは思えない

11月に開催した和合町の防災訓練。安否確認の訓練では地域の人たちが自分たちでスムーズに行える方法を考え、訓練を行って下さいました。これは、いざという時にみんなで助け合うための訓練でもあります。また、泉小学校避難所立ち上げ訓練においても皆さんが真剣に参加してくださった様子を見て、みんなでやる訓練の大切さ、自主的にやらなければという意識の上での訓練の必要性を感じました。

いざという時に、地域の顔の見える人たちが、助け合えるための訓練。それぞれが防災について考え、訓練に参加して頂くという事の大切さを、今回、強く感じました。

筆耕：防災コーディネーター 松山 美佐